

令和6年度 学校評価に関するアンケート調査結果から

【各調査について】

- | | |
|-------------|---|
| 1 調査期日 (前期) | 教職員 令和6年10月9日（水）～10月18日（金）
児童 令和6年10月1日（火）～10月11日（金）
保護者 令和6年10月1日（火）～10月18日（金） |
| (後期) | 教職員 令和7年 1月7日（火）～ 1月15日（水）
児童 令和7年 1月9日（火）～ 1月15日（水）
保護者 令和7年 1月9日（火）～ 1月22日（水） |
| 2 調査方法 | フォームによる回答（教職員、保護者）
質問紙による回答（児童）
※いずれも1～5の選択式 |

〈教職員による自己評価から〉

○肯定的評価が特に高かった項目（100%）

- ①学校は、家庭・地域は、連携して学校運営を行っていったと思いますか。
- ③学校は、教育資源を学校教育につなげる体制づくりができてきましたか。
- ④学校は、教育方針に基づいた諸活動等についてわかりやすく説明できていますか。
- ⑤学校は、小規模校の強み（特性）を生かした活動（体験学習・個別指導）にとり組んでいますか。
- ⑥学校は、諸課題に対して複数での組織的対応ができますか。
- ⑨あなたは、人間関係力向上を意識した授業展開を心がけましたか。
- ⑪あなたは、自分や周囲の人を思いやる行動や言葉かけをする指導してきましたか。
- ⑯あなたは、安全教育や事故防止に努めていますか。

○肯定的評価が比較的高かった項目

- ⑦あなたは、主体的な学習を推進するような指導に努めました。（86%）
- ⑧あなたは、児童一人一人を大切にしたわかりやすい授業を心がけましたか。（88%）
- ⑫あなたは、諸問題が生じた時に一人一人に寄り添った生徒指導ができましたか。（88%）
- ⑬あなたは、いじめ防止のための早期発見・早期対応に努めていますか。（88%）
- ⑮あなたは、研修に積極的に参加したり授業改善工夫をしたりして指導力の向上に努めていますか。

○肯定的評価が比較的低い項目（80%未満）

- ②学校は、全職員が学校経営に参画できる環境が整ってきましたか。（78%）
- ⑩あなたは、iPad や chromebook を授業で活用できましたか。

【講評】

- ・学校運営全般において良好だったといえる。
- ・前期と比較して、12項目の肯定的評価が5%以上向上した。特に、小規模校の特徴を生かした学習や生徒指導の数値が30～35%向上している。教職員が、個を大切にする意

識を持ちながらの指導や自由進度学習を実施するなど児童中心の学び、体験活動や専門家やボランティアによる授業など特色ある活動をしてきた成果だと考えられる。

- ・いつでも授業参観（1学期）、校内授業研究（2学期）、自由進度学習及び複数学年での指導を進めるための研修と実践（3学期）と、本校の実態に合わせた授業づくりについて研究し、実践してきた。研修後には、振り返りをして授業改善もしてきた。そうした積み重ねにより、前期に比べて次の項目が大きく向上したと推測される。主体的な学習（31%）、わかりやすい授業（24%）、人間関係力の向上（36%）、研修に積極的に参加及び指導力の向上（33%）
- ・前期と比較して、生活面でも次の項目の肯定的評価が大きく上がった。おもいやる行動や言葉かけ（36%）、規則正しい生活（28%）、基本的生活習慣の定着と挨拶（18%）。今年度、前期の評価後に、教員、児童、保護者それぞれの立場から、児童のアンケート結果で課題だと思われる4項目について原因と対策について話し合った。そこで出された対策を実施してきた成果だと考えられる。
- ・「学校経営に参画できる環境が整ってきたか」について、前期と比較して22%下がった。教職員が意思疎通を図るために打合せや行事等は協働で実施している。思い当たる原因是考えられなかった。

〈児童アンケート調査から〉

○肯定的評価が高かった項目（90%以上）

- ②授業は、わかりやすかったですか。（95%）
- ③あなたは、まわりの人と協力して学習や活動ができましたか。（94%）
- ⑤あなたは、授業や活動、行事等で iPad や chromebook を活用できましたか。（94%）
- ⑦あなたは、先生や友達に自分からあいさつがきましたか。（94%）
- ⑨あなたは、自分や友達を思いやる行動や、言葉かけがきましたか。（90%）
- ⑩あなたは、困ったことがあった時に、先生方や家族等、誰かに相談できましたか。（97%）
- ⑬あなたは、安全についての学習や避難訓練がしっかりできましたか。（97%）
- ⑭あなたは、何かに挑戦しようとしましたか。（達成していないくともいいです。）（90%）

○肯定的評価が比較的低い項目（80%未満）

- ④あなたは、進んで読書をしましたか。（79%）
- ⑪あなたは、進んで身体を動かす事（運動）ができましたか。（78%）
- ⑫あなたは、規則正しい生活（早寝早起き朝ご飯）ができましたか。（76%）

【講評】

- ・全項目の肯定的評価が75%以上であった。3項目だけが70%台であり、8項目が90%以上であったことから、概ね良好だったといえる。
- ・前期の評価と比較して肯定的評価が5%以上向上した項目が5つあった。学習面では、自分から進んで学習できた（10%）、授業がわかりやすかった（6%）、進んで読書をしたか（11%）であった。生活面では、あいさつができた（8%）、困った時に、先生方

や家族等、誰かに相談できましたか（25%）であった。これらは、前期で肯定的評価が低く課題であった項目である。児童、教員、保護者、それぞれの立場で課題と対策を話し合い、そこで話し合われた意見を意識して取り組んできた成果であると考える。

- ・前期の評価と比較して肯定的評価が5%以上低下した項目が、進んで身体を動かす事ができたか（5%）であった。今後も、体育の授業における運動量の確保、休み時間で外遊びの推奨をしていく必要があると考える。

〈保護者アンケートから〉

○肯定的評価が高かった項目（90%以上）

- ①学校・家庭・地域は連携して学校教育活動や行事等を行っていると思いますか（98%）
- ②学校・家庭・地域は基本的生活習慣の定着や、挨拶を進んでできる子の育成に努めていると思いますか。（92%）
- ③学校・家庭・地域は、教育資源を生かし、協働的な学びや体験的な学びを進めていると思いますか。（98%）
- ④学校・家庭・地域は、お便りやHP、メール等で情報を共有できていると思いますか。（100%）
- ⑤学校・家庭・地域は、小規模校の強み（特性）を生かした教育活動をすいしんしていると思いますか。（94%）
- ⑥学校・家庭・地域は、一人一人の個性を大事にし、子どもの人権を尊重していると思いますか。（95%）
- ⑩お子さんはiPadやchromebookを活用できていますか。（92%）
- ⑪お子さんは、学校に楽しく通えていますか。（92%）
- ⑬お子さんは、悩みや問題が生じた時に家族や先生に相談できますか。（95%）
- ⑯学校・家庭・地域は、安全教育や事故防止に努めていますか。（90%）

○肯定的評価が比較的低い項目（80%未満）

- ⑦お子さんは、自分から進んで学習していますか。（76%）

【講評】

- ・13項目が肯定的評価85%以上であり、全項目が75%以上であった。よって、学校運営全般において良好だったといえる。
- ・13項目が、前期の評価と比較して肯定的評価が上がった。そのうち9項目が5%以上向上した。
- ・学校・家庭・地域の連携をみると、学校教育活動や行事等を行っている（9%）、基本的生活習慣の定着や挨拶を進んでできる子の育成（8%）、教育資源を生かし、協働的な学びや体験的な学びを進めているか（15%）、情報共有ができているか（5%）、一人一人の個性を大事にし、子どもの人権を尊重している（9%）が向上している。地域のボランティアや保護者が学習や安全の見守り活動に参加した。ボランティアの方との会合や学校参観日など地域や保護者の方と話す機会を多くしたり、学校だよりや学年だより、HP等で学校活動の様子を伝えたりした。それらにより向上したと考える。

- ・学習面では、自分から進んで学習している（13%）、タブレットの活用（6%）が向上している。学校懇談会では、児童が進んで学習するにはどうすればよいか話し合った。その成果が出たと考える。また、自由進度学習をはじめ、児童が主体となった学びを進めた成果とも考える。
- ・生活面では、悩みや問題が生じたときに家族や先生に相談できる（9%）が向上している。
一人一人を大切にした
- ・環境の整備も7%向上した。花壇の整備、樹木の剪定、教室整備などしてきた成果だと考える。

（3者比較から）

- ・「進んで学習できた」の項目は、児童と教員の肯定的評価がほぼ同じである。保護者が10%ほど低い。家庭での様子を見ての評価なのか、授業の様子が伝わっていないのか、だと考える。後者であれば、児童の頑張りが伝わるような方法を考えていく必要がある。
- ・「授業がわかりやすかった」の項目は、児童の評価に比べて教職員と保護者の評価が低い。
- ・「協力して学習や活動ができたか」の項目は、児童と教職員の評価が94%以上と高かったが、保護者の評価は82%と低かった。学校では自己有用感や自己肯定感を向上させる取組を今後も続け、人間関係力向上につながる活動についてHPなどで伝えたり、生活面において、誰かに必要とされる、認められているといった実感を持たせる経験を積み重ねていったりすることが大切だと考える。自由進度学習をしてきたが、学習の進め方や学習環境など自己決定の場が多くあり、自己肯定感を高める学習につながると考える。
- ・「あいさつができた」の項目は、児童と保護者の肯定的評価が90%以上で高く、教職員が10%程低かった。児童と教職員の基準が異なっている可能性が考えられる。
- ・「思いやる行動や言葉かけ」の肯定的評価については、3者とも89%以上と高かった。
- ・「進んで身体を動かすこと」「規則正しい生活ができたか」の項目は、他の項目と比較して3者とも低かった。身体を動かすに関しては外遊びの推奨、学校体育における運動量の確保、体育的行事の活用等により、運動に親しめるようにしたい。
- ・学校経営、運営に関してみると、いずれの項目も高い評価であった。

学校だよりやHPなどにより教育活動を伝達した。また、行事や参観日をはじめ児童の様子を見学する場の設定、学級懇談会や学校懇談会において保護者と学校が意見交換する場の設定をした。これらにより情報共有が図られたと考える。

地域には布施弁天やあけぼの山農業公園などの施設、農家など教育的資源が多くある。また、学校の教育活動に関わってきた地域ボランティアや保護者といった人的資源も多くいる。それらを活用した学習をしていると教職員も保護者も実感しているといえる。

本校の特色はたてわり活動である。全校では、たてわり掃除、たてわり遊び、全校遠足の実施。今年度は、低学年（1～3年）と高学年（4～6年）において異年齢学習や給食を進めてきた。人間関係を固定化させないことにより、子どもの可能性を広げ、レッテル貼りをしない環境作りにしていきたいと考える。小規模校の良さをいかすとともに、人間関係における課題を解決する方法を探っていきたい。